

# 異文化と

## 心通わせ

(105)

村田 佳子



「あれこのを嗅いでし」子供のことを思いで出てしまつた時、ナニコレ! と自分の嗅覚を疑いながら、ギンナンを拾って試しあげた。その変なにおいをもう一度確認してしまつのは私だけでしょうか。先日、主人の母から送られてきたギンナンを炒のながり、ツサイと友達と笑つたことがあります。見たこ

## 日本人の二オイ

「おじ」と言えば、日本人は香水をつける習慣は外国人に比べてあまりないようになります。また、つける場合の量も少ないので、多国籍の大勢の男女の中にいて、はじめはそのいろんなにおいが混ざった中でクラクラとぬまじがすのほどでした。「この人は香水のシャワーを浴びてきたんじゃないかな」と思うほど強烈な香りがする」という話は有名です。

れば、「数年前までの人のはじみにしたかな?」とわかるほどの香りを残していいる人も多いました。調味料としても、かけた英語で「香水をつける」も多くの日本人にとって「聞こたいとは思わない」という動詞がよく用いられます。が、あまり香りの「臭い」よりも「香り」が記憶に残っているのです。しかし、日本では香水を放つて、それが他の人に「おじ」がしてしまふすれば、体から水以外にも、全身からフレーの香辛料のよくな香りを放つていて、印度人やスリランカ方面の方もいました。そんな中で、研修を一緒に受ける仲間の香りなどにおいがきつてあまらないよと感じます。また、つける場合の量も少ないなど、相談を受けたことがあります。においについての個人的なことなので私はこれには困っていました。

異なる文化を一瞬にして感じ取るのは、景色を堪能する目や音や言葉を聞き取る耳ではなく、実際に鼻が最初なのかもしれません。しかし、日本市出身、コーチング

